

委託事業実施内容報告書
平成30年度「生活者としての外国人」のための日本語教育事業
【地域日本語教育実践プログラム(B)】
実施内容報告書

団体名：地球っ子クラブ2000

1. 事業の概要

事業名称	多文化ハッピープログラム「人が育つ！街が育つ！」～多様性が生きる街～
事業の目的	外国につながる子どもたちの力を伸ばすには保護者への支援と、関わる人の理解を含めた、教育環境の改善が必要である。H30年度は、今まで委嘱事業として進めてきた取組の集大成の年と位置づけ、さいたま市教育委員会をはじめとする機関との連携をさらに深め、コーディネーターの設置等具体的な体制整備の実現を目的とする。 また、生活者としての外国人がその人らしく活躍できる多文化共生社会の実現のために、共に学んできた外国出身の隣人と協働して、積極的に日本社会に発信していく。
日本語教育活動に関する地域の実情・課題	埼玉県は外国籍住民が多く(全国5番目)、国際結婚の増加に伴って「日本で子育て・教育をする外国出身者」が増えている。しかし、彼らのライフステージに合った教室、子どもが学べる教室、親子が一緒に通える教室はほとんどない。しかも、子育て、教育に関しては、出身国の背景と異なる点が多く、彼らが戸惑うケースや、学校や日本人の理解不足から問題化するケースも見聞きする。日本語学習の項目として、子育て・教育について学べる場を提供すると同時に、情報提供、情報交換の場、日本人住民が彼らのことを理解し互いに尊重し合える場を創造することが必要である。また、市内の日本語加配教員や日本語指導員、教職員など、外国出身親子に接する人に対する研修が十分ではないため、H29年度は当団体が人材育成事業を企画し実施した。日本語教育能力の向上をはかり、担任や管理職など教職員全体が外国につながる子どもや保護者に対する教育的配慮などを学ぶ機会が必要とされる。これらの課題解決をリードする日本語教育の専門性を持つコーディネーターを教育委員会に設置することが不可欠である。
本事業の対象とする空白地域の状況	
事業内容の概要	【取組1】教室活動(地球っ子クラブ2000担当)親子参加型日本語教室:体験を軸にした活動型教室を開催することで、日本語、学校文化などを親子で学び、生き生きと彼らしい学校生活が送れるよう、親子にとってのプレスクールの役割を担った。 【取組2】教室活動(多文化子育ての会Coconico担当)子育て中の外国人のための日本語教室:子育てや生活に必要な話題を中心に、居場所作り、仲間作りを行った。早い段階で日本社会に出る力をつけることを大切にしたい。 【取組3】教室活動(てんきりん担当)外国人自らが地域で活躍することにより、多文化共生の街作りに貢献した。 【取組4】連携による体制作り:外国人が集住している地域・学校と連携し、外国出身親子を取り巻く環境を整備する(協議会、就学時健診時の支援体制、スクールサポートネットワークへの参加)。また、地域日本語教育コーディネーターの会が中心になって、教育委員会と連携し、コーディネーターの配置を整備していくことを目指した。 【取組5】人材育成:学校や地域で日本語教育に関わる人を対象に、児童生徒・保護者への配慮も含めた日本語教育の在り方と実践を学び、外国につながる親子の教育環境を改善していった。 【取組6】地域へ発信:外国出身の仲間たちが、教室活動で身につけた日本語と本来持っているその人らしさで、直接日本人と交流、意見交換をして、多文化共生の街作りの一端を担ってもらおうような様々な発信の機会を作った。
事業の実施期間	平成30年5月～平成31年3月 (11か月間)

2. 事業の実施体制

(1) 運営委員会

【運営委員】

1	畔勝 茜	さいたま市教育委員会 学校教育部 指導一課 指導主事
2	石川 信雄	さいたま観光国際協会 国際交流センター センター長
3	吉原 誠士	さいたま市立片柳小学校 校長
4	渋沢 豊	埼玉県 県民生活部 国際課 主幹
5	福田 智子	埼玉県国際交流協会 主査
6	浦部 徹	埼玉県教育局 市町村支援部 生涯学習推進課 家庭教育支援担当 指導主事
7	轡田 真幸	さいたま市経済局商工観光部 観光国際課 国際化推進係 係長
8	高柳 なな枝	地球っ子クラブ2000 代表
9	井上 くみ子	多文化子育ての会Coconico 代表
10	芳賀 洋子	あそび舎てんきりん 代表



【概要】

回数	開講日時	時間数	場所	出席者	議題及び検討内容
1	平成30年5月9日 (水) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動 サポートセンター	高柳、井上、芳賀、石川 吉原、渋谷、福田、浦部、 響田	1. 自己紹介、団体紹介 2. 今年度の事業内容の概要 3. 質疑応答・意見交換
2	平成30年10月12日 (金) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動 サポートセンター	高柳、井上、芳賀、石川 渋谷、浦部、畔勝	1. 今年度事業取組 経過報告 2. 連携と相談～子どもの現状・最近の事例から～ 3. 意見交換
3	平成31年2月14日 (木) 15:00～17:00	2時間	さいたま市市民活動 サポートセンター	高柳、井上、芳賀、石川 吉原、渋谷、福田	1. 今年度の事業報告 2. 意見交換 3. 来年度に向けて

(2) 地域における関係機関・団体等との連携・協力

連携体制	●運営委員会各団体との連携…子どもと保護者の状況について理解を深めあい、具体的な施策に結びつけた。 ●さいたま市教育委員会、さいたま市教育研究所、東宮下小学校との連携…人材育成事業(取組5)として、教職員等を対象とした研修を行った。また、人材育成の一環として、保育園・学校からの具体的な相談に応じ、訪問研修を行った。 ●東宮下小学校との連携…就学時健診時に保護者サポートの要員として配属。入学前説明会での子育て講座担当。 - また、SSN(スクールサポートネットワーク)協議会に参加。学校行事に外国人保護者が参加しやすくなる 環境作りの一端を担った。 ●さいたま市教育委員会、東宮下小、七里小、七里保育園、七里東保育園、七里公民館…就学前の子どもを持つ外国人保護者のための日本語教室開催の協働により、外国出身の保護者が就学前に日本の学校について知り、子どもの教育に主体的に関われるようにした。 ●東宮下小、七里小、七里保育園、七里東保育園、七里公民館、さいたまユースサポート…七里地区での外国につながる子どもの教育について話し合う協議会開催により、子どもたちの教育に関わる地域の機関がつながり、地域ぐるみのサポート体制をつくった。 ●NPO法人ECO・ECO…ボランティア体験、自然体験を協働して企画、実施。地域社会への参加を促した。 ●さいたま市立図書館、さいたま市チャレンジスクール、デイケア施設パル…多言語による絵本の読みきかせorおはなし会と、世界の文字のワークショップの開催。親にとっては社会参加、子どもにとっては自分のアイデンティティを確立していく下支えとなった。また、地域の人々にとっては外国出身の人がそれぞれの国の文化と言葉を大切にしながら暮らしていることを知る機会となった。 ●埼玉県国際交流協会…国際フェアなどのイベントに参加し、自分たちの文化と存在を強く地域にアピールする機会となった。
------	--

(3) 中核メンバー及び関係機関・団体による本事業の実施体制

本事業の実施体制	各取組毎にコーディネーターと指導者が連携し、企画から運営まで円滑な実施に努めた。さらに、中核メンバー全員は、適宜連絡を取り合い、各取組が連動して目標とする日本語教育の体制整備、多文化共生の街作りが進むように努めた。中核メンバーは運営委員に各事業について報告し助言を求めながら進めた。具体的には、理念を共有し、全体として大きな一つの目標に向かうよう分担し、それぞれ主体的に協力しあいながら取組を実施していった。また、他機関との連携を重視し、各方面との交渉、話し合いも積極的に進めていった。29年度 of 取組を進める中で、さいたま市教育委員会内に日本語教育をはじめ外国出身親子に対応するコーディネーター設置に向け、さいたま市教育委員会の教育長との話し合いがもたれたことは大きな成果である。30年度は、教育委員会と協力し合いながらこれが実現するよう、本事業のコーディネータが中心となり最大限の努力をしたが、今後も継続した話し合いが必要である。 本事業終了後を見据え、地球っ子クラブ2000が中核になる一方、多文化子育ての会Coconco、事務局てんきりんの活動についても積極的にアピールしていくことにも力を入れた。中核メンバーは、共に活動する会員、参加する外国出身の隣人達がそれぞれが持っている力を十分発揮し、取組がより豊かになるよう協働して実施した。
----------	--

3. 各取組の報告

＜取組1＞											
取組の名称		親子で学ぼう！～日本語、日本の学校のこと～									
取組の目標		子育て・子どもの教育・保育園や学校で使用する日本語を中心に学び、話し合うことにより、日本語で考えを発信したり、意見交換や相談ができる日本語力をつけることを目標とする。あわせて、取組4のような協議会や学校でのサポートを通し、地域・学校・家庭が連携しながら外国人親子、特に保護者を支えることで、保護者が積極的且つ主体的に、自信を持って子育て・教育していける環境を整備しその充実をさらに図る。									
取組の内容		(1)親子参加の日本語教室 親子とともに体験できる日本語教室の開催。実験や工作、デイキャンプ、親子のスキンシップを重視した体操などを行い、体験とことばを結びつける目的で活動を行った。 (2)就学前日本語講座(夏休み親子イベント) 小学校に入学する前の子どもをもつ保護者が、日本の学校教育について事前に情報を得、日本語を学びながら子育て・教育について考えて各取り組みを行った。また就学時健診から入学、入学後のさまざまな疑問・不明点について気軽に相談できる場、仲間作りを試みた。 この内容を行うことが目的であるが、以前の取組から外国人保護者たちが事前に学校について知る必要性を感じていないようであるので、平成28年度はまず外国出身親子が楽しめる会を企画し参加者を募り、そこからこのような講座へとつなげていくこととした。その結果参加者が大幅に増え、つながりを持つことができた。									
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		教室活動から見えてきたことを取組4の協議会の話題にあげ、教育委員会、保育園・小学校・中学校、地域(公民館)と連携することにより、就学時健診から入学までのサポートなどを行うプレスクールの役割を担い、その体制整備へとつなげた。									
取組による日本語能力の向上		子育て・教育について日本語で話すことで、学校で使用される日本語(懇談会や学校行事など)について理解できることを目指した。またその結果、積極的に子どもの教育に関与していけることを目標とした。さらに日本人側にも、外国人住民にとってわかりやすい「やさしい日本語」を習得してもらうきっかけとなった。									
参加対象者		外国人親子(日本語を母語としない親子) 外国にルーツを持つ子どもの教育を支える関係者(保護者を含む)					参加者数 (内 外国人数)		78人(57人)		
広報及び募集方法		チラシ配布(保育園・小学校)、地域の保育園・小学校を通して声かけ、ホームページ活用									
開催時間数		総時間 20時間 (空白地域 時間)				内訳 2時間 × 10回					
主な連携・協働先		さいたま市教育委員会、さいたま市立東宮下小学校、さいたま市七里小学校、さいたま市立七里保育園、さいたま市立七里東保育園、さいたま市立七里公民館 NPO法人エコエコ、ヨガインストラクター(菊池清香)									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本	
	29	3	0	10	0	0	0	0	2	21	
※該当する場合のみ		バングラデシュ(6人)、モロッコ(3人)、トルコ(3人)、パラグアイ(1人)									
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年7月14日(土) 13:30～15:30	2	植竹公民館	7	夏休み親子イベント準備	夏休み親子イベント「移動ポケットを作ろう」の準備として、フェルトや布を採寸して裁断するなど準備を行いながら、子育て教育について話す。		高柳なな枝	洪知恵 井上くみ子		
2	平成30年7月28日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	22	夏休み親子イベント① 移動ポケットを作ろう	保護者は保育園・小学校のことを話しながらポケット部分を作成。子どもはフェルトでの形づくり。最終的にアイロンで貼り付け完成させ小学校に持っていきけるものを作る。		高柳なな枝	小野寺美樹 西山珠祐 五十洲恵		
3	平成30年8月4日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	30	夏休み親子イベント② できるかな？ アイスクリーム	gやmlなどの単位を身近なものに感じたり、塩により温度がマイナスになる場面をみてマイナスの概念を学んだりしながらアイスを作る。		高柳なな枝	小野寺美樹 西山珠祐 井上くみ子		
4	平成30年8月25日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	22	夏休み親子イベント③ 作って食べよう！ ベトナムの料理	保護者に先生になってもらい、ベトナム料理を作って食べる。教えることで、また作り方を聞くことで日本語力の向上を図り、子どもは母文化に誇りが持てる機会とする。		高柳なな枝	小野寺美樹 井上くみ子 芳賀洋子		

5	平成30年6月9日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	13	同じ？違う？	「同じ」「違う」ということばを基に多年齢のグループで協働しながらタスクを行う。	高柳なな枝	五十洲恵 井上くみ子
6	平成30年6月23日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	27	くつついた(磁石遊び)	「くつついた」、「くつつかない」の不思議から、ルールを守って魚釣りゲームを楽しむ。工作やゲームの中で「貸して」「ありがとう」をはじめ、やり取りをし言葉を豊かにする。	高柳なな枝	芳賀洋子 井上くみ子
7	平成30年7月14日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	17	○△□で何つくろう	形をつくる造形作業を通し、創作意欲を高め、物の名前を覚えたり、やり取りしたりすることにつなげる。	高柳なな枝	五十洲恵 芳賀洋子
8	平成30年9月22日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	20	とんとん相撲	工作をする中で年齢に応じた創意工夫をし、それを使ってみんなで遊び交流を図る。親子で同じグループとなり、相談する・協力する作業を通し、一体感を感じる。	高柳なな枝	小野寺美樹 五十洲恵 井上くみ子
9	平成30年11月23日(金) 10:00～12:00	2	さいたま市 見沼田んぼ	54	デイキャンプ・自然体験	自然や地域の日本人と触れ合いながら社会の一員として野外でお昼ご飯づくりをし、その後のボランティア活動につなげる。自然の中での体験を豊かにしことばも豊かにする。	高柳なな枝 加倉井範子	芳賀洋子 五十洲恵
10	平成31年2月9日(土) 10:00～12:00	2	七里公民館	15	親子ヨガ	親子同士・参加者同士とのふれあいをはかり、ゲスト講師に感謝の気持ちを伝えるなど他者とのやり取りをはかる。	高柳なな枝 菊池清香	小野寺美樹 五十洲恵

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第2回 H30年7月28日】夏休み親子イベント①移動ポケットを作ろう

1. 読み聞かせ 絵本『このかたちなあに』
2. 移動ポケットの説明
3. 親子分かれ作業する (ママ: ポケット本体/子ども: フェルトで形づくり)
4. 合体させ、アイロンがけ
5. 絵本『挨拶絵本』
6. 作品紹介



○取組事例②

【第8回 H30年9月22日】とんとん相撲

1. 読み聞かせ 絵本『ちびすけどっこい』
2. とんとん相撲の説明
3. グループ分け、グループの色決め、色塗り
4. 「頑張れ！」各国の言い方
5. とんとん相撲 (グループ対抗戦/自分で新たな力士づくり、個人戦)
6. 読み聞かせ 絵本『はっきよいどーん』



(2) 目標の達成状況・成果

- 活動中の参与観察や親子とのやりとりから、
- 多年齢・多国籍の学びの場となっている。子どもにとってはプレスクール的な学びの場になり、保護者にとっては教育相談の場にもなりつつある。
 - 活動内容も家では体験しないことが地域の仲間と体験できた。体験を通し、その場に応じた日本語が学べた。
 - 活動の最初に必ず行う絵本の読み聞かせが効果的だった。
- 読み聞かせにより、その日の活動にすんなり入れ、子どもの成長過程に必要なお話への親しみ、文字に触れることにつながった。
- 日本語教室は必要ない親子でもイベントに参加する親子もいて、長期的なつながりができて楽しんで参加している。
- 日本語に問題がなくても、外国出身親子が健やかに生活していくための体験の場、他者との交流の場、そして日本での子育て・教育について相談の場となった。

(3) 今後の改善点について

- 参加している親子のニーズにあった内容で、体験型教室を展開していきたい。
 - 保護者が子育て・教育について話す時間をもう少し意識的につくるようにしたい。
 - 新規の参加者については、何よりも口コミが一番有効。現在、参加してきている保護者に活動方針について理解してもらい、誘ってもらうようにしたい。
- 特に保護者に関しては、この親子日本語教室の狙いをよく理解してもらい、参加してもらうようにしたい。
- ただ遊んでいるだけではなく、遊び、つまり活動や体験からことばや概念獲得に結び付くことを理解してもらえればと考える。

＜取組2＞										
取組の名称		やさしい子育て ～やさしい日本語で やさしい地域で～								
取組の目標		子育て中の孤立をふせぎ、早い段階で地域社会とつながる。仲間、居場所を作り、出産や子育て中の不安を軽減する。病院、保育園、入学など、必要な日本語や日本の制度や手続き、日本社会での生活がスムーズにいくような関係づくりなどについて話し合い、学ぶ。地域での活躍できる場を提供する。親子で外出する。これまでの取組で、外出する機会を増やすことにより、日本人との交流ができ、日本語の上達だけでなく地域に「やさしい日本語」を広めていく効果があった。外国出身者の日本語力の向上と同時に、日本人が「やさしい日本語」を周知することにより、双方向に学びのある住みやすい地域となる。								
取組の内容		(1)日本語を学ぶ場、仲間作り、居場所作り これまでの教室活動での話題から、知りたいことや考えていることは、母親として日本人と変わらないことが分かっていたため(日本語だけではない)子供の成長やママ友との付き合い方、学校のPTAなど心配していることや、保育園の手続きや病院でのことば、成績表の見方など、必要としていることを学んだ。出産や子育てについて、外国人経験者から学んだ。何でも話せる仲間と集まれる場所を作った。 (2)外出、交流 親子で花見やBBQ、動物園や科学館などへ出かけた。共通の体験をすることにより、親子の会話や経験を増やした。父親も参加するように働きかけた。料理教室などの地域のイベントにも参加し、やさしい日本語を知ってもらった。 (3)活躍の場 図書館で多言語おはなし会を開催。母親の母語母文化に子供が興味を持ち、誇りに思うことにより、安定した親子関係を築いた。料理教室を開催し、自国の料理や文化を地域の人に紹介する機会を作った。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		さいたま市図書館、さいたま市公民館、コープみらい等と連携し、地域に出ていきやすく、やさしい日本語を話せる街になることをめざした。								
取組による日本語能力の向上		「教える人＝日本人」ではなく、経験者である外国出身者の力を活用する。子育ての喜び、楽しさ、悩みを話し合った。必要な日本語(幼稚園や学校、習い事、子供の健康など)、知りたい日本の事(冠婚葬祭、手土産、お礼のメールなど)を学んだ。								
参加対象者		子育て中の外国出身者と子供、子育て経験のある外国出身者、国際結婚した外国出身者とその家族、地域の日本人親子				参加者数 (内 外国人数)		49人(40人)		
広報及び募集方法		フェイスブックの活用、子育て支援ブック、口コミ								
開催時間数		総時間 20 時間 (空白地域 時間)			内訳 2 時間 × 10 回					
主な連携・協働先		コープみらい、さいたま市図書館、さいたま市公民館、埼玉県国際交流協会、やさしい日本語ツーリズム								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネ シア	ペルー	フィリピン	日本
	30	2		1			1			9
※該当する場合のみ モンゴル(2名)、カンボジア(2名)、マレーシア(1名)、カメルーン(1名)										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年6月18日 (月)10:30～12:30	2	コープブラ ザウらわ	5	日本語学習	SIATビラ事業の内容と自分を語る練習 子どもの喧嘩、幼児言葉について		井上くみ子	小野寺美樹(補助者)	
2	平成30年7月2日(月) 10:30～12:30	2	コープブラ ザウらわ	5	日本語学習	おはなし会打ち合わせ・練習 料理教室の材料や持ち物の確認		井上くみ子	生形晴子(補助者)	
3	平成30年7月4日(水) 10:30～12:30	2	コープブラ ザウらわ	16	料理教室開催	地域の人たちに料理を教え、一緒に料理 を作って食べる。自然な会話を楽し み、交流する。		井上くみ子	鈴木沙弥香(補助者)	
4	平成30年7月16日 (月)10:30～12:30	2	沼影市民 プール	14	親子でお出かけ	親子で出かける。持ち物や交通手段を 考え、行動する。ルールを守って安全に 遊ぶ。		井上くみ子	鈴木沙弥香(補助者)	
5	平成30年7月30日 (月)10:30～12:30	2	コープブラ ザウらわ	6	日本語学習	日本語の勉強の仕方について 子どもの成長と帰国の時期		井上くみ子	小野寺美樹(補助者)	
6	平成30年9月17日 (月)10:30～12:30	2	コープブラ ザウらわ	17	親子料理 食育教室	親子で料理を作る。親子の会話を楽し み、安全な食べ物について考える。みん なで食べること、会話も楽しむ。		井上くみ子	夏紅霞(補助者)	

7	平成30年10月29日 (月)10:30~12:30	2	コーププラ ザうらわ	9	日本語学習	家庭の言葉(日本語ができない心配、 母語を忘れる心配)について。 初級日本語。	井上くみ子	小野寺美樹(補助者)
8	12月3日(月)10:30 ~12:30	2	コーププラ ザうらわ	6	日本語学習	パルシステム料理教室のシュミレーシ ョン 多言語おはなし会の打ち合わせと練習	井上くみ子	小野寺美樹(補助者)
9	1月7日(月)10:30~ 12:30	2	コーププラ ザうらわ	9	持ちより 親子新年会	お母さんが得意なものを持ち寄り、料理 を紹介する。親子で新年会。子どもたち は自分で考えたクイズを出す。	井上くみ子	竹田園園(補助者)
10	2月4日(月)10:30~ 12:30	2	コーププラ ザうらわ	5	春節 おおみそか	中国出身者と水餃子を作って食べる。 コープの集まりで来ている方々にも、差 し入れをし、活動紹介を行う。	井上くみ子	鈴木沙弥香(補助者)

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 平成30年7月16日】

親子で沼影市民プールに出かけた。中国出身のお母さんが中心となり、時間と集合場所を連絡し、参加者をつのった。それぞれで交通手段を調べ、必要だと思う持ち物を確認しあい、準備した。当日は、市民プールのルール(禁止事項)を説明した。子どもたちは、ルールを守り、おやつ交換をしたり、流れるプールで追いかっこをしたり、すぐに打ち解けて仲良く遊んだ。また、幼稚園や学校に行くようになり、しばらく会っていなかった子とも会えて、喜んでいて。また、お母さんたちは順番でプールに入ったり、乳幼児の世話をしたりと、互いに協力している姿が見られた。親子ともに、笑顔の絶えない1日となった。



○取組事例②

【第6回 平成30年9月17日】

親子で協力し、パンやカスタードクリーム、サラダ、スープなどを作った。いつも自分の食べている物に、何が入っているかを親子で考える機会となった。体にいいもの、よくないもの、作る時に入れる必要があるのかなのか等を、お母さんたちがお互いに教えあい、子どもの健康について興味を持っていることが分かった。自分で作ったものは特に美味しく、大人数で食べる楽しさもあり、皆よろこんでお腹いっぱい食べた。をまた、家では子どもが手伝ってくれても有難いと感じる余裕がなく、失敗して怒ってしまったり、かえって時間がかかりイライラすることもあるが、みんなでやると優しくなれるし、楽しくできたという声が聞かれた。子ども同士も仲良くなり、次はいつ？とまた会える日を楽しみにしている様子だった。



(2) 目標の達成状況・成果

- ・居場所を作り、仲間を作ることにより、出産や子育て中の不安を軽減できた。
- ・日本語だけでなく、自分の経験や得意なことを活かし、互いに教えたり学んだりできた。
- ・必要な日本語を、必要な時に勉強し、学校や幼稚園の不安やママ友とのメール等もすぐに対応できた。
- ・親子で外出することにより、社会のルールを学び、日本人とも交流できた。
- ・地域の人との交流により、日本語の上達だけでなく、「やさしい日本語」を広めていく効果があった。
- ・失敗しないように、きちんと準備や練習をしたので、活躍の場で力を発揮できた。

(3) 今後の改善点について

- ・必要としている人に情報が届いていない。この場を知らない人への広報をさらに工夫する必要がある。
- ・子どもの年齢により「日本語ができない」という心配から、「母語を忘れてしまう」という心配が多くなってきている。同じ母語であっても、子ども同士は日本語で会話をすることも多い。子ども同士で母語を使う時間を作りたいという意見があった。

＜取組3＞										
取組の名称		地域の人と共に、多様性豊かな暮らしを実現するために！								
取組の目標		日本にいる外国出身の人が地域の生活者として豊かな暮らしを実現できるようにするために必要なことは「みんなと一緒に活動」「つながり」「エンパワメント」「多文化共生の街」であると考え。そこで、これら4つのキーワードにつなげる教室活動を作り出し、日本語コミュニケーション力と発信力を付けて行く。								
取組の内容		今までの取り組みを通して、エンパワメントこそが、日本語の獲得はもちろん、自己肯定力、地域社会での豊かな繋がり、多文化共生の街作りへの貢献等、様々な波及効果を作り出すことがわかったので、それぞれの人が自分の良さを見つけ、それを早い段階で地域での活躍に結び付けけるような教室活動を企画した。 1) 地域で活躍するための力を付ける…多文化みんなの勉強部屋では、学校や公民館などで、自分の文化や言葉を語れる力をつけるようにした。また、自分の将来を考え、公民館、生協などの場で講座を企画し、講師を務められるようになった。 2) 地域の人と一緒に学ぶ…多言語絵本の会などを通して、図書館や学校でのおはなし会や文化紹介などで自国の文化やことばをアピールすることができた。 3) 地域の人と活動…地域の人と一緒にバザー開催。 4) 外国出身者が中心となって企画・発信…多文化カフェ、料理講習会など、地域の日本人とともに多文化空間を楽しむことにより、多文化共生の街作りのひとつのモデルを作った。 5) 地域の人と一緒にボランティア活動…①さいたま市見沼地区の保全活動。木に絡みついた葛のつるを除去。とったつるで、リースやかごをつくり、自然に親しむと同時に地域の自然保護のお手伝い。②地域のデイケア施設で、高齢者と一緒に手仕事をしたり、にほんご畑で学んだイメージビンゴを楽しんだりして交流。								
空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		外国出身者が日本のことばや文化を理解し活躍できるようになることはもちろん、日本人側も外国出身者との交流や協働を通して、外国出身者の前にある壁を理解し、互いにそれを超えて認め合える多文化共生の街の実現。これにより、海外出身者が学校、地域、ボランティア、または家庭や職業において活躍する基盤となり、さらに多様性豊かな地域をつくるよい循環を生み出した。このことが、子供たちの教育を保障する体制を作る下支えにもなったと思う。								
取組による日本語能力の向上		地域の日本人と一緒に活動し、豊かな繋がりを作り、地域で活躍(エンパワメント)することによって、日本社会の中で見失っていた自己実現を可能にし、自己評価を高めることができた。エンパワメントを目標にした体験的学習の中で、生活の力となる日本語力を身に着つけることができた。取組3に参加し、手法を学ぶことによって、自分でサークルを立ち上げた人(韓国「ちんぐ」パラグアイ「伝統刺繍ニャンドゥティ」)もいて、教室活動の大きな成果と考える。								
参加対象者		外国出身者・地域の日本人					参加者数 (内 外国人数)		64人(46人)	
広報及び募集方法		チラシ配布、ホームページ活用、口コミ、フェイスブック活用								
開催時間数		総時間 21.5 時間 (空白地域 時間)			内訳 2 時間 × 9 回 + 3.5 時間 × 1 回					
主な連携・協働先		さいたま市内小学校チャレンジスクール、さいたま市立図書館、EPO法人エコエコ、デイケア・パル、埼玉県国際交流協会、教育委員会生涯学習振興課、市内小学校スクールソーシャルワーカー								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	12人 (内子4人)	3人		10人 (内子6人)					7人 (内子1人)	18人
※該当する場合のみ		アルゼンチン(1人) パラグアイ(1人) チベット(2人) トルコ(3人・内子2人) カメルーン(1人) カンボジア(1人) ミャンマー(1人) 香港(1人) バングラディシュ(3人・内子2人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年5月31日(木) 10:30～12:30	2	事務局 てんきりん	23人	エンパワメント 多文化カフェ(チ ベット)	仲間であるロディーギャッツォ(チベット)の 作品上映会に向けた準備会。モモ(餃子)を みんなで作って絆づくり		芳賀洋子	ロディー ギャッツォ(発表者) 五十洲 恵(指導補助) 大石 やす子(指導補助)	
2	平成30年7月12日(木) 18:00～20:00	2	事務局 てんきりん	10人	多文化共生 多文化カフェ(香 港)	リリーさん(香港出身)が自作の多文化漫談 を発表。それをきっかけに、文化の違いにつ いて、地域の日本人も、外国出身者も隣人 として対話。		芳賀洋子	リリー・チョン(発表者) 大石 やす子(指導補助)	
3	平成30年7月13日(木) 10:30～12:30	2	事務局 てんきりん	8人	多言語で楽しむ 絵本の会	絵本『くんちゃんのはじめての学校』の紹介 あり。ことばを学ぶことについてみんなで話 し合えた。		芳賀洋子	金子 多実枝(指導補助))	
4	平成30年7月21日(土) 13:00～16:30	3.5	彩の国 芸術劇場	22人	エンパワメント 上映会(チベット)	「ぼくの村は天空にある」上映会。準備会か らスタートして、広報から当日の運営まで、 日本人も一緒に活動。		芳賀洋子	ロディー ギャッツォ(発表者) 小林 智子(指導補助)	

5	平成30年9月6日(木) 13:30～15:30	2	デイケア パル	7人	ボランティア+ エンパワーメント デイケア訪問	地域のデイケア施設を訪問して、変わり目 己紹介や各国の文化紹介をきっかけに日本 の昔の話を聞く(韓国／パラグアイ／香港／ 他)	芳賀洋子	(発表者)リリア・デヨフ、大津路ア リシア、西川ナンシ、李銀美、大 石やす子
6	平成30年10月11日(木) 10:30～12:30	2	事務局 てんきりん	11人	みんなの勉強部屋	日本語初級の人の集まり。やさしい日本語 と「日本語会話シートfor初心者」を駆使して 話し合い。「私のこと・私の国」	芳賀洋子	五十洲 恵(指導補助) 井上 くみ子(指導補助)
7	平成30年10月18日(木) 13:30～15:30	2	事務局 てんきりん	9人	みんなの勉強部屋	個別の学習(保護者と連絡帳やお手紙のこ と。子供と宿題等)のあと、初級者に配慮し ながら全員で折り紙。	芳賀洋子	五十洲 恵(指導補助) 大石 やす子(指導補助)
8	平成30年11月23日(土) 12:30～14:30	2	見沼田んぼ	54人	ボランティア体験	見沼田んぼの保全ボランティア活動。木に 絡まったつるを採り、それでリース作りも。自 然の中で、地域の日本人と一緒に社会の一 員として自分発見	芳賀洋子 加倉井範子 (講師)	高柳 なな枝(指導補助)
9	平成30年12月13日(木) 10:30～12:30	2	事務局 てんきりん	7人	エンパワーメント 国際理解教室 パワーアップ	国際理解教室で講師を務めたメンバーの授 業の振り返りをきっかけに、自分の国や言 葉の紹介。話す内容の検討。	井上くみ子	芳賀 洋子(指導補助) 五十洲 恵(指導補助)
10	平成31年1月31日(木) 10:30～12:30	2	事務局 てんきりん	7人	みんなの勉強部屋	作文練習。日本語初級の参加者も日本人も 同じテーマで。日本語初級であっても内容の 濃い話があった。	芳賀洋子	井上 くみ子(指導補助) 五十洲 恵(指導補助)

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第4回 2018年7月21日】13:00集合⇒受付13:30～14:00⇒上映14:00～15:20⇒アフタートーク15:20～15:50⇒終了作業+反省会15:50～16:30
チベット出身の仲間の作品・映画「ぼくの村は天空にある」の上映会開催が決まってから、準備会・チケットづくり・広報活動を経て当日を迎えた。
1) 集合…当日の役割確認 受付(前売りチケット持参者チェック・当日協力券販売・案内係・会場係) それぞれ民族衣装を身に付けて活動。
2) 上映…映画鑑賞 「ぼくの村は天空にある」はロディーギャツツォさんが海拔4000mにある自分の故郷を、伝統の祭りを通して紹介したものである。彼のナレーションと風の音が、彼の故郷への思いを効果的に伝える。
3) アフタートーク…ロディーギャツツォさんのトーク「チベットのこと」。4) 終了後の片づけ、振り返りと感想。
観客97名(スタッフを含む)の大きなイベントをみんなで成功させた達成感は大きく、今年度のそのほかのみんなの活躍(サークル・韓国と日本のともだち、パラグアイ伝統刺繍の講座等)にもつながった。



○取組事例②

【第10回 2019年1月31日】みんなのぺんきょう部屋 10:30～12:30
日本語初級者や子どもであっても、今の生活の中で、あるいは学校でエンパワメントできることを念頭に、主としてグループで学習をしている。この日の参加者は7人。作文練習の必要がある人、日本語ほぼゼロの人、長く日本にいて会話は全く問題ないが書くことは不得意な人等。
1) 多言語数字あそび…日本語、Tagalog語 スペイン語でゲーム。楽しみながら数の定着を図る。
2) 多言語作文…全員が3～5行作文に挑戦。学習者は日本語、ただし、初級者は自分の言葉でもいいが、知っている単語だけひらがなで書く。日本人は英語で。⇒それぞれ発表。初級者の作文は先輩学習者が日本語に訳す。テーマは「お金がたくさん入るけれどつまらない仕事と楽しいけどお金にならない仕事とどっちを選ぶ?」「体に良くない食べ物は食べるのを我慢しますか?」「心に残る食べ物」。日本語はできなくても人柄が表れていい。
3) 絵本を多言語で楽しむ…日本語の絵本を読みながら参加者の言葉に直して読んでもらう(写真はタガログ語)。多言語おはなし会につなげる学習。



(2) 目標の達成状況・成果

エンパワメントを最終目標にした日本語教室として、参加者の力を引き出すことに焦点を合わせた取り組みを進めてきた。その結果、図書館のおはなし会で日本の絵本を自分の言葉で発表、国際理解教室の講師として活躍、料理講習会の講師等、教室参加者が地域で活躍できるようになった。漫談を自作、映画の上映会、伝統刺繍の教室開催、自国の文化サークル立ち上げなど、教室活動の外に出て自分の力を発揮する人も出てきて、地域の多文化共生に役立っている。また、みんなの勉強部屋では、日本語初級であっても子供であっても、それぞれ、地域や学校でエンパワメントすることを目指して取り組めた。＜外国出身者の声＞・日本人とたくさん話して、自国にいた時は知らなかったことに興味を持ち、キムチ作りもうまくなった。韓国料理を通して日本人も外国人も仲間になれるサークルを立ち上げた。・私の子どもは毎日ここに来たいです。(来日3か月中国)・ここは普通のほのぼの教室とは違って、日本人も外国人も一緒にいろんなことが話せて、自分の力も発揮できる。(香港)
＜日本人参加者の声＞・ここに来ると、いろんな国の人がいて、普通に話ができるとても楽しい。・若い人や子供とも話ができありがたい。

(3) 今後の改善点について

・スクールソーシャルワーカーが、外国ルーツの親子を教室につなげてくれるようになり、カバンを持って親子で参加するため、学校での日本語指導、担任の先生の対応の問題点(例・連絡帳の説明がされていない/文字指導で書きが先行するための弊害/子どもの言葉の問題が周知されていないため、できないことばかり教えられる/子供の成長過程にあった指導がされていない等)が浮き彫りになってきた。外国ルーツの子どもが増えている中で、体験中心の日本語教室のニーズが高まっている。子供たちが元気にエンパワメントされるために、多文化の子どもたちの教室を地域、学校が協力して立ち上げる必要がある。また、それに先立ち、多文化の子どもたちが持っている特性や問題点を学校関係者が理解、共有する研修が必要だと感じる。
・取組については、外国出身者が教室活動の企画などで、さらに主体的に力を発揮できるようにしたい。

＜取組4＞

取組の名称		多文化の子どもの教育を保障する体制整備に向けた連携 ～親子を取り巻く機関との連携＆コーディネーターの設置～									
取組の目標		外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、子どもたちや保護者が日本語を学ぶだけでは不十分であり、支援の体制整備が必要である。H27年度の事業で、その必要性を周知してもらうために、さいたま市の中で比較的外国につながる子どもが多い七里地区で、教育環境を改善するために地区の協議会を立ち上げた。そこでの小学校長、保育園長との情報交換、意見交換から、就学時健診の支援、入学説明会での子育て講座の講師など、大きな連携体制が生まれた。この成果の上に、さいたま市の他の地域のモデルとなるよう、さらに取組を進める。 また、教育環境の改善には日本語教育コーディネーターの役割が必須であると考え、自主的なコーディネーターの会を立ち上げ、H29年度にはさいたま市の教育長と意見交換の機会を得て、前向きにとらえてもらうことができた。H30年度の取組の中でコーディネーターを行政の中に配置するべく、さいたま市教育委員会と協働していく。									
取組の内容		日常会話における日本語ができる保護者でも、学校の情報やシステムが理解できていない事例に出会う。これは、保護者に「内容が伝わっていない」ために起きることで、日本人側が気づいていないことが多く、このことがしばしば教育現場や日本人保護者の間で問題になり、ひいては外国につながる子どもが受ける教育の質にも影響してくる。そこで七里地区の小学校、保育園、さいたま市教育委員会など子どもを取り巻く現場の人たちが一堂に会し、地域の協議会を開催することで、外国出身親子の問題、日本語教育のコーディネーターの必要性を共有し、教育環境の改善につなげる取組を行った。 (1) 多文化の子どもの教育を支える地区の協議会の開催 (さいたま市見沼区七里地域・南区大谷口地域) (2) 保育園・学校主催事業に参加(就学時健診、入学説明会、出張読み聞かせ会＆懇談会、随時相談受付など) (3) 地域と学校の連携事業SSN(スクールサポートネットワーク)に参加。その延長として、外国出身の保護者の学校行事・PTA事業への参加を促した。 (4) 地域日本語教育コーディネーターの会の活動 教育委員会内に、外国につながる子どもと保護者にかかわる対応の相談や日本語教育などに対し総合的に対応できるコーディネーターの設置を実現するために各機関と話し合いを進めた。その一方で、地域日本語教育をリードし、委託を受けられる団体となることを目指した。									
	空白地域を含む場合、空白地域での活動										
取組による体制整備		(1) 協議会を行うことで、各学校や保育園での課題に対する改善案の提案した。各園・小学校内だけの改善にとどまらず、地域一丸となって外国につながる親子をサポートできる環境づくりにつながった。 (2) 就学時健診における外国人保護者への配慮と学校内ツアーの開催。他の地域のモデルとなるよう努めた。 (3) 地域と学校との連携の中に日本語支援団体として参加し、外国人も日本人も住みやすい地域を作る足掛かりとした。 (4) 外国につながる子どもと保護者、また、子どもに関わる人の相談体制ができてつある。そのほかにも日本語指導に関わる人の研修など、日本語教育が前進した。									
取組による日本語能力の向上		直接的な日本語習得ではないが、周りの理解を深めることにより、本当に役立つ日本語教育の体制作りを目指した。結果的に日本語の習得がしやすい環境が生まれることにつながった。									
参加対象者		(1)～(3)七里地区の保育園、小学校、地域の関係者、教育委員会、公民館など (4)文化庁地域日本語教育コーディネーターを受講した者。日本語教育コーディネーターの経験がある者					参加者数 (内 外国人数)		146人(6人)		
広報及び募集方法		個別にメール、訪問等で相談									
開催時間数		総時間20時間(空白地域 時間)			(1)協議会 1回2時間×2回 (2)就学時健診・子育て講座1回2時間×4回 (3)SSN1回1.5時間×1回 (4)コーディネーターの会1回1時間×1回、2.5時間×1回、3時間×1回						
主な連携・協働先		さいたま市教育委員会、さいたま市立東宮下小学校、さいたま市七里小学校、七里保育園、七里東保育園、七里公民館、NPO法人さいたまユースサポートネット									
受講者の出身 (ルーツ)・国別内訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ	ペルー	フィリピン	日本	
	5	0	0	1	0	0	0	0	0	140	
※該当する場合のみ											
実施内容											
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名		
1	平成30年5月30日(水) 15:00～17:00	2	七里公民館	6	七里地区 多文化の子どもたち を支える 地域の協議会①	・団体紹介、趣旨説明、自己紹介 ・各現場の現状、多文化親子への対応の工夫、課題		(コーディネーター) 高柳なな枝	(会議出席) 井上くみ子、五十洲恵、田中豊治 小野寺智夫、長谷川和俊		
2	平成31年1月15日(火) 15:00～17:00	2	七里公民館	11	七里地区 多文化の子どもたち を支える 地域の協議会②	・協議会から派生した取組の報告 ・今後に向けて ・各現場の現状、工夫、課題		(コーディネーター) 高柳なな枝	(会議出席)井上くみ子、五十洲恵、 正田真由美、小野寺智夫、 長谷川和俊、吉田京子、武笠幸子、 吉川佳代子、柴田恵理、佐々木勇気		
3	平成30年10月26日(金) 12:00～14:00	2	東宮下小学校	サポート対象者 4	就学時健診	・問診票記入サポート ・外国出身保護者への教育相談		(コーディネーター) 高柳なな枝	(補助者)井上くみ子、鈴木沙弥 香		

4	平成30年10月26日(金) 11:30～13:30	2	春岡小学校	サポ ー ト 対 象 者 1	就学時健診	・問診票記入サポート ・外国出身保護者への教育相談	(コーディネーター) 芳賀洋子	(補助者) 五十洲恵
5	平成30年11月9日(木) 13:30～15:30	2	片柳小学校	90	新入学説明会 子育て講座	・子育て講座 ・校長との面会	(講師) 高柳なな枝	(コーディネーター)井上くみ子 新1年生児童保護者 90人
6	平成31年2月8日(金) 13:30～15:30	2	東宮下小学校	24	新入学説明会 子育て講座	・子育て講座 ・校長、日本語加配教員との面会	(講師) 高柳なな枝	新1年生児童保護者 24人
7	平成30年8月30日(木) 13:30～15:00	1.5	東宮下小学校	14	スクールサポート ネットワーク(SSN) 協議会	・東宮下小学校の教育活動 ・SSNについて ・各団体より情報交換 ・授業参観	(会議出席) 高柳なな枝	SSN協議会参加者 14名
8	平成30年6月7日(木) 18:30～21:00	2.5	てんきりん	5	地域日本語教育 コーディネーターの 会①	・教育委員会との面談にあたって ・コーディネーターについて ・勉強会について	(コーディネーター) 高柳なな枝	(会議出席) 芳賀洋子、井上くみ子 五十洲恵、小野寺美樹
9	平成30年6月27日(水) 13:30～14:30	1	教育委員会	4	地域日本語教育 コーディネーターの 会②	コーディネーターについて その他相談	(コーディネーター) 高柳なな枝	(会議出席) 芳賀洋子、井上くみ子 畔勝茜
10	平成30年12月21日 (金) 9:00～12:00	3	てんきりん	3	地域日本語教育 コーディネーターの 会③	・勉強会について ・その他相談があった件について ・コーディネーターについて	(コーディネーター) 高柳なな枝	(会議出席) 芳賀洋子、井上くみ子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第3回 H30年10月26日】就学時健診

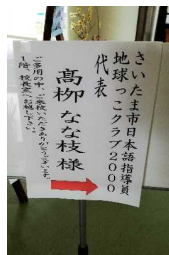
1. 受付で問診票の提出
外国出身保護者でどう記入していいかわからなかった人のためにテーブルを用意し、母子手帳と照らし合わせ、問診票記入のサポート
2. 外国出身保護者への教育相談
子どもが健診を受けている際に保護者は教室で待機。その際に、教室や児童の持ち物などを見ながら、入学時に必要な物や支援制度について説明。



○取組事例②

【第6回 H31年2月8日】子育て講座

1. 自己紹介
2. 多文化、学校のルールについてクイズ
3. わからない体験(ベンガル語の書き取り)
4. まとめ: 多文化の子どもが在籍する学校で、入学前の準備として



(2) 目標の達成状況・成果

- 連携や体制整備をはかる上で、会議の参加者が増えた。会議参加者や発言内容から
- 協議会には、今まで参加メンバーではなかった中学校(教頭)やユースサポートネットのソーシャルワーカーも参加し、保育園・小学校・中学校の縦のつながりでの話や、多方面の話ができるようになった。
 - さいたま市見沼区に限られているが、協議会から派生して、各学校との連携ができつつある。
 - 運営委員会で活動を理解してもらったことから、家庭教育アドバイザーの研修会講師の話につながった。家庭教育アドバイザーは小学校の子育て講座などにも講師として行くので、今後、外国出身保護者への接し方(やさしい日本語、多文化への配慮など)の変化が期待できる。
 - 埼玉県社会福祉士会に参加したことから、スクールソーシャルワーカー等福祉分野との連携が広がった。

(3) 今後の改善点について

- 七里地区の成果をふまえ、他地域(緑区、南区のトルコ系住民が増えつつある地域)にも協議会が必要だと考える。その地区の小学校校長などとつながり協議会が開催できるように、運営委員(小学校校長)経由で働きかけたい。
- 七里地区の協議会には自治体(団地)や地区社協、民生委員の方との連携も必要な地域であり、どう連携していくかが課題である。引き続きソーシャルワーカーと連携していき、かつキーパーソンと繋がれるように地域の事業に顔を出す。
- さいたま市子育て支援課から相談は来るが、その後、話が消えてしまい連携が取れないことが多かった。教育委員会(学齢期)とは連携できているが、子育て支援課(就学前)と今後連携が取れればいいと思う。運営委員会をはじめ、学校、行政関係者とのつながりを活用したい。

＜取組5＞										
取組の名称		人材育成「多文化の子どもの力を伸ばすために～日本語、文化的配慮、保護者との関わりを考える～」								
取組の目標		外国に繋がる子どもたちが、その多様性を活かしてそれぞれにあった教育が受けられるようになるためには、支援の体制整備が必要である。特にその教育に関わる人材育成は急務である。日本語加配教員やさいたま市日本語指導員、日本語ボランティアなどへのレベルアップが求められる。また子どもたちや保護者に関わる教職員には、学校での文化的・教育的配慮や保護者との関わり、学級経営などの力も求められている。子どもが日本語を学んでいき、本来持っている力が発揮できるような教育的環境、人材育成に力を入れる。今後、日本語教育コーディネーターが教育委員会内に設置され、人材育成事業を引き継いでもらえるように働きかけていく。								
□	取組の内容		(1)講演会「多文化の子どもの育ちを支える」～関わるすべての人が知っておくべきこと ①石井恵理子氏「Lifeを支える日本語教育～今子どもに必要な支援と長期的な視点～」 ②内河水穂子氏「誰にでもわかりやすい授業～ユニバーサルデザインと日本語教育」 ③井上くみ子氏「やさしい日本語コミュニケーション講座～やさしい学校・やさしい関係～」 ④門美由紀氏「多文化の子どものもとその家族が抱えるニーズに向かい合う～外国出身保護者・子どもたちの語りから」 (2)教師力パワーアップ講座 「外国につながる児童生徒・保護者とのかかわりと学級経営」と題し、日本語教育だけに特化せず、幅広く教職員向けの講座とする。 (3)保育園・学校等の訪問研修・スクールソーシャルワーカーなどの研修 保育園、学校などから相談があった場合、その機関に出向き研修を行う。子どもや保護者への文化的・教育的配慮、やさしい日本語など、相談の内容に応じ対応する。 (4)多文化の子どものを支える勉強会							
		空白地域を含む場合、空白地域での活動								
	取組による体制整備		日本語教育環境の改善、学校教職員の意識の改革。 また、学校教育における日本語教育コーディネーターの設置を促すための話し合いを設けた。							
	取組による日本語能力の向上		日本語学習者に対する直接的な取組ではないが、子どもたちへの日本語教育環境改善、保護者への対応の変化により、外国につながる子どもへの日本語習得の向上や保護者の学校における主体的な活躍が今後期待できる。							
参加対象者		(1)日本語加配教員、日本語指導員、日本語ボランティア (2)さいたま市教職員 (3)各保育園、学校など (4)多文化の子どもの教育に関わる全ての人				参加者数 (内 外国人数)		197人(7人)		
広報及び募集方法		さいたま市教育委員会による広報、さいたま市教育研究所による広報、チラシ配布、前年度参加者に通知、ホームページの活用								
開催時間数		総時間30.5時間(空白地域 時間)		(1)講演会 1回3時間×4回 (2)教師力パワーアップ講座1回1.5時間×3回 (3)学校訪問研修1回1.5時間×4回、2時間×2回 (4)勉強会1回2時間×2回						
主な連携・協働先		さいたま市教育委員会、さいたま市教育研究所、さいたま市七里保育園、さいたま市七里東保育園								
受講者の出身 (ルーツ)・国別内 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシア	ペルー	フィリピン	日本
	2	3	0	1	0	0	0	0	0	190
	パラグアイ(1人)									
※該当する場合のみ										
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成30年7月7日(土) 9:00～12:00	3	浦和コミュニ ティセンター	49	講演会① 「多文化の子どもの育ちを 支える」 ～関わるすべての人が 知っておくべきこと～	Lifeを支える日本語教育 今子どもに必要な支援と長期的な視点		石井恵理子	コーディネーター:高柳なな枝	
2	平成30年9月30日(日) 9:00～12:00	3	武蔵浦和コ ミュニティセ ンター	43	講演会② 「多文化の子どもの育ちを 支える」 ～関わるすべての人が 知っておくべきこと～	誰にでもわかりやすい授業 ～ユニバーサルデザインと日本語教育 ～		内河水穂子	コーディネーター:高柳なな枝	
3	平成30年10月13日(土) 9:00～12:00	3	浦和コミュニ ティセンター	30	講演会③ 「多文化の子どもの育ちを 支える」 ～関わるすべての人が 知っておくべきこと～	やさしい日本語コミュニケーション講座 ～やさしい学校・やさしい関係～		井上くみ子	コーディネーター:芳賀洋子	
4	平成30年11月17日(土) 9:00～12:00	3	浦和コミュニ ティセンター	32	講演会④ 「多文化の子どもの育ちを 支える」 ～関わるすべての人が 知っておくべきこと～	多文化の子どものもとその家族の抱えるニーズ に向かい合う ～外国出身の保護者・子どもたちの 語りから～		門美由紀	コーディネーター:芳賀洋子 発表者:鈴木沙弥香 発表者:シャニーカ	

5	平成30年5月18日(金) 18:50～20:20	1.5	教育研究所	4	教師力パワーアップ講座	外国につながる 児童生徒・保護者との関わりと学級経 営	高柳なな枝	補助者:芳賀洋子
6	平成30年11月30日(金) 18:50～20:20	1.5	下落合公民館	7	教師力パワーアップ講座	外国につながる 児童生徒・保護者との関わりと学級経 営	高柳なな枝	補助者:芳賀洋子
7	平成31年2月28日(金) 18:50～20:20	1.5	教育研究所	7	教師力パワーアップ講座	外国につながる 児童生徒・保護者との関わりと学級経 営	高柳なな枝	補助者:芳賀洋子
8	平成30年6月29日(金) 17:00～18:30	1.5	七里保育園	20	学校等訪問研修	外国につながる子どもと保護者への対応	高柳なな枝	コーディネーター芳賀洋子
9	平成30年7月5日(木) 17:00～18:30	1.5	七里東保育園	18	学校等訪問研修	外国につながる子どもと保護者への対応	芳賀洋子	補助者:五十洲恵
10	平成30年7月26日(木) 18:30～20:30	1.5	東大成小学校	10	学校等訪問研修	外国につながる子どもと保護者への対応	芳賀洋子	補助者:小林智子
11	平成30年8月16日(木) 13:00～15:00	2	埼玉県社会福 祉士会館	16	学校等訪問研修	ソーシャルワーク委員会研修 外国につながる子どもの現状	芳賀洋子	
12	平成30年10月4日(木) 13:00～15:00	2	埼玉県国際 交流協会	20	学校等訪問研修	世界へのトビラ講師研修	井上くみ子	コーディネーター芳賀洋子
13	平成30年12月7日(金) 15:00～16:30	1.5	尾間木小学校	4	学校等訪問研修	外国につながる子どもと保護者への対応	芳賀洋子	
14	平成30年12月1日(土) 10:00～12:00	2	与野本町公 民館	10	多文化にルーツのあ る子どもに関わる人 の勉強会	参加者の日本語指導、学習指導での悩 み・課題に対し、効果的な学習方法や 教材を提示し合う	高柳なな枝 井上くみ子	コーディネーター芳賀洋子
15	平成31年3月2日(土) 10:00～12:00	2	仲本公民館	17	多文化にルーツのあ る子どもに関わる人 の勉強会	参加者の日本語指導、学習指導での悩 み・課題に対し、効果的な学習方法や 教材を提示し合う	高柳なな枝 井上くみ子	コーディネーター芳賀洋子

(1) 特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 H30年7月7日】講演会①

石井恵理子先生

Lifeを支える日本語教育～今子どもに必要な支援と長期的な視点～

1. 講師紹介
2. 講演会
3. 質疑応答、アンケート記入



○取組事例②

【第13回 H30年12月1日】

外国にルーツのある子どもに関わる人の勉強会

1. 自己紹介
2. 各自が抱えている指導上の課題、それに対する改善策
3. おすすめの絵本、教材、指導法の紹介
4. 次回勉強会の日程相談



(2) 目標の達成状況・成果

参加者数や参加者の様子・アンケートから

●講演会では教育委員会に後援をしてもらい、会場予約・備品予約がスムーズにできた。

また教育委員会の協力により、すべての学校に講演会のチラシを配布してもらうことができた。

●埼玉県国際課「多文化共生ボランティア登録システム」へのメール配信や、埼玉県国際交流協会のメールマガジンによる講演会の周知により、新規の参加者が増え、理解が広まった。

●講演会や勉強会の参加者は、その講義の分野の理解が深まったと非常にいい感想が多かった。

アンケートより抜粋

<一緒に生活する仲間という言葉に共感した>

<社会的資源の活用につなげていきたい>

<グループワークの中で、大学では学べないことがたくさんあった>

<わからない体験を通して、外国の人の気持ちがわかった>

<周りが障害だと思つと障害者、障害と思わない間は障害にならない>

<ほめる種をまく。これこそ教育の原点だと思いました>

●やはり教職員の理解が不可欠ということから、文科省「外国人児童生徒受け入れの手引き」をもとに、外国につながる子どもの教育について、より、さいたまの現状にあった教材を作成したいという目標が新たに定まった。

(3) 今後の改善点について

●講演会のチラシを全小中学校に配布しても、教職員の参加がほとんどなく、チラシを受け取っていない日本語指導員もいて周知の難しさを感じる。しかし、子どもと直接かかわる教職員向け研修の機会を作る必要があり、この点に関しては教育委員会、教育研究所と連携していくしかない。

●学校訪問研修は非常に効果的だが、教育委員会とのつながりがないと相談がこちらに伝わらないため、来年度以降は教育委員会とのより強い連携であったり、コーディネーター設置が急がれる。

＜取組6＞										
取組の名称		外国につながる市民から発信！「つながる地域 ひろがる仲間 そして 多文化共生の街」								
取組の目標		地域の日本人、外国につながる子どもたちに接するすべての日本人に、①多文化共生について②多様性の持つ豊かさについて、様々な機会を作り理解を深めてもらう。外国出身の仲間たちが、教室活動で身につけた日本語コミュニケーション力と本来持っているその人らしさで、直接日本人と交流したり意見交換をしたりして、当事者として地域に発信してもらい多文化共生の街作りの一端を担ってもらう。								
取組の内容		1)外国出身者との対話型シンポジウム「知り合おう！語り合おう！学び合おう！」 ①外国出身者の体験談を聞こう ②外国出身者とグループワーク ③交流会 ④総括 2)多言語によるおはなし会とワークショップ ・多言語おはなし会(さいたま市内の4図書館、さいたま市内の保育園、埼玉県教育局の子ども大学等) ・チャレンジスクール(さいたま市内の2小学校) ・国際理解・国際交流の会(さいたま市内の公民館、デイケア施設パル) これらのおはなし会や文化紹介を通して、外国出身の人が自国のことばと文化を大切にしながら、さいたま市で共に暮らしていることを、日本人側(地域の参加者、図書館や保育園など各施設の職員)に実感してもらう機会とした。また、ワークショップや終了後の交流会を積極的に取り入れ、外国出身者と地域の日本人がやさしい日本語を使って話し合える場面を作った。これらの発信によって多文化共生の街作りに寄与する取組となった。								
☐	空白地域を含む場合、空白地域での活動									
取組による体制整備		外国出身者が積極的に地域に出ていき、自国の文化や言葉も紹介しながら日本人と交流していくことで、地域の人々と外国出身者の間にある様々な壁(ことばの壁や心の壁)を超えることができた。日本語を母語としない人とのコミュニケーションに役立つやさしい日本語の普及も同時に進めることができた。								
取組による日本語能力の向上		外国出身者が「発信する日本語」を習得するだけでなく、日本人側も、「やさしい日本語」について、理解し、使えるようになった。双方向の学びによって、言葉の壁を超えてコミュニケーションができるようになった。								
参加対象者		1)取組5の人材育成事業参加者および、地域の市民 2)地域の市民、外国出身の市民、各施設の職員等				参加者数 (内 外国人数)		230人(14人)		
広報及び募集方法		チラシ、ホームページ・フェイスブックの活用、ロコミ、ソーシャルワーカー研究会、埼玉県国際課メーリングリスト、埼玉県国際交流協会メールマガジン、埼玉県教育局チラシ、図書館からのお知らせ(市報、近隣幼稚園・小学校へのチラシ配布)								
開催時間数		総時間15時間(空白地域 時間)				(1)外国出身者との対話型シンポジウム 3時間×1回 (2)多言語によるおはなし会とワークショップ 1回2時間×5回、1時間×2回				
主な連携・協働先		1)埼玉県社会福祉士会多文化ソーシャルワーク委員会、埼玉県国際交流協会、埼玉県国際課、埼玉県教育局 2)さいたま市内図書館、学校チャレンジスクール、デイケア・パル								
受講者の出身 (ルーツ)・国内別 訳(人)	中国	韓国	ブラジル	ベトナム	ネパール	タイ	インドネシ	ペルー	フィリピン	日本
	5	2	0	1	0	0	1	0	0	216
※該当する場合のみ		カンボジア(1人)、パラグアイ(1人)、アルゼンチン(1人)、モンゴル(1人)、コロンビア(1人)								
実施内容										
回数	開講日時	時間数	場所	受講者数	研修のテーマ	授業概要		講師・指導者名	補助者・発表者・会議出席者等名	
1	平成31年1月19日(土) 13:30～16:30	3	与野本町コミュニティセンター	50	外国出身者との対話型シンポジウム 「知り合おう！語り合おう！学び合おう！」	①外国出身者の体験談を聞こう ②外国出身者とグループワーク ③交流会 ④総括		高柳なな枝 井上くみ子 (コーディネー タ) 芳賀洋子	(発表者)リリーチョン、鈴木沙弥香 李銀美、洪智恵、大奈路アリシア、 アントウ、下村ハンダスレン、 西川ナンシ	
2	平成30年8月23日(木) 10:00～12:00	2	南浦和図書館	59	多言語によるおはなし会とワークショップ 図書館	1. 多言語によるおはなし会 2. 多言語によるワークショップ (モンゴル語／スペイン語／手話)		井上くみ子	(発表者) 五十洲恵、下村ハンダスレン、 鈴木マルタエレナ (補助者)小野寺美樹	
3	平成30年12月15日 (土) 10:00～12:00	2	武蔵浦和図書館	39	多言語によるおはなし会とワークショップ 図書館	1. 多言語によるおはなし会 2. 多言語によるワークショップ (モンゴル語／インドネシア語／中国語／手話)		井上くみ子	(発表者) 五十洲恵、下村ハンダスレン、 山田フォニー、鈴木沙弥香 (補助者)小野寺美樹	
4	平成31年1月27日(日) 14:00～16:00	2	大宮図書館	35	多言語によるおはなし会とワークショップ 図書館	1. 多言語によるおはなし会 2. 多言語によるワークショップ (インドネシア語／クメール語／手話)		芳賀洋子 (コーディネー タ) 高柳なな枝	(発表者) 山田フォニー、 森ボーラ、植草祐美	
5	平成30年6月9日(土) 9:00～12:00	2	東大成小学校	19	多言語によるおはなし会とワークショップ チャレンジスクール	1. 多言語によるおはなし会 2. 多言語によるワークショップ (中国／パラグアイ／韓国)		芳賀洋子	(発表者)陳海霞、陳子涵 李銀美 大奈路アリシア	

6	平成30年6月30日(土) 10:00～12:00	2	大谷口小学校	21	多言語によるおはなし会とワークショップ チャレンジスクール	1. 多言語によるおはなし会 2. 多言語によるワークショップ. (カンボジア／韓国)	芳賀洋子	(発表者)森ボーラ 陳華姫
7	平成30年7月12日(木) 13:45～15:00	1	デイケア施設 パル	12	文化紹介と交流 デイケア施設	各国の文化紹介をきっかけに 日本の昔の話を聞く (香港／アルゼンチン)	芳賀洋子	(発表者)リリー・チョン 西川ナンシ

(1)特徴的な活動風景(2～3回分)

○取組事例①

【第1回 H31年1月19日】外国出身者との対話型シンポジウム「知り合おう！語り合おう！学び合おう！」

1. はじめに
2. グループで対話(「対話」とは何か／キムチ・マテ茶を飲食しながら)
3. 外国出身者紹介
4. 『挨拶絵本』各国挨拶紹介
5. 外国出身者による漫談
6. 外国出身者の語り ①日本で育った子ども ②日本で子育てしている母親 ③今、取り組んでいること
7. まとめ&感想
8. アンケート記入



○取組事例②

【第4回 H31年1月27日】多言語によるおはなし会とワークショップ（大宮図書館）

1. はじめに: 図書館挨拶、団体紹介
2. 多言語おはなし会
 - ①『挨拶絵本』→どの国かな？
 - ②『くつついた』クメール語
 - ③『大きなかぶ』インドネシア語
 - ④『わにさんどきっ はいしゃさんどきっ』手話
 - ⑤『おめでとうおひさま』全員
3. ワークショップ
 - ①お正月の話
 - ②干支(インドネシア・カンボジア・日本の鳴き声から動物をあてる)
自分の干支の色塗り
 - ③インドネシアのじゃんけん
 - ④ルール説明: 十二支のカードを持ってみんなとインドネシアのじゃんけん。勝ったら、カードにかいてあるその人の干支に丸をつけてもらう。
 - ⑤じゃんけんゲーム・結果発表
4. 最後に「ありがとう」「またね」を各国語で



(2) 目標の達成状況・成果

参加者の様子やアンケートから

- 講演会同様、日本語教育に関わる人だけではなく、いろいろな分野の人の参加が見られた。
英語が話せないと参加できないわけではなく、難しいことでもなく、気軽に、そして楽しく参加できたことがとてもよかったようだ。
- 1月19日の対話の会やおはなし会等での当事者の発信力を感じた。
日頃の教室活動の中で、教える/教えられる関係を超えた繋がりがあるからこそできた企画。多文化の子どもやその保護者との対話や発信を通し、多文化の子どもやその保護者と関わる人の発信を通し、彼らの現状や本来の能力、また配慮についての理解が今後も進めばと思う。
- 参加者のアンケートより抜粋
＜魅力いっぱいの外国の方々に出会えて大変刺激を受けました。共生できるためにできることを考えて行きたいです＞
＜迷っていましたが、日本語指導員を続けて行こうと思えました＞
＜学校での障害の多さに気づきました。現場の教職員に伝える機会を作りたいです＞
＜同じ地域に暮らす人たちが助け合って楽しく良い空間を作っていく～というポジティブでパワフルな会だと感じました＞
＜子どもの日本語を支えるだけでなく、地域や家族を巻き込んでいくことの大切さを実感しました＞

(3) 今後の改善点について

- まだまだ「やさしい日本語」を知らない人も多いことを実感した。
- 一般の日本人だけでなく、日本語関係者さえも対等の関係で話すことが少ないことがアンケートの結果から分かった。
アンケートより抜粋
＜在日の外国人の方と交流ができ、こういうものと新鮮でした＞
＜日本で育った人の話を聞くことがないのでとても貴重でした(日本語支援者)＞
生活者としての外国人と日本人が、対等な関係で、対話できることが多文化共生の第一歩であろう。
- 今後もこのような外国出身者がその人らしさを発揮できるような場を設け、彼らの良さを、地域にいろいろな言語・文化を持つ人がいることを日本人にもっと知ってもらいたい。そのためには、図書館や学校、その他の施設などこのような場を作ることが大切である。

4. 事業に対する評価について

(1) 事業の目的・目標

外国につながる子どもたちの力を伸ばすには保護者への支援と、関わる人の理解を含めた、教育環境の改善が必要である。
H30年度は、今まで委嘱事業として進めてきた取組の集大成の年と位置づけ、さいたま市教育委員会をはじめとする機関との連携をさらに深め、コーディネーターの設置等具体的な体制整備の実現を目的とする。
また、生活者としての外国人がその人らしく活躍できる多文化共生社会の実現のために、共に学んできた外国出身の隣人と協働して、積極的に日本社会に発信していく。

(2) 目的・目標の達成状況・事業の成果

- 取組1, 2, 3のそれぞれの日本語教室活動については、参与観察や参加者の発言からライフステージにあった学びが実施されたと言える。またその学びで得た日本語を使い、取組6の発信事業でその人が持っている能力を日本人住民にも知らせることができた。参加者のアンケートや発言から、楽しい内容で、地域には英語だけではなくいろいろな言語を話す人たちが住んでいることが実感でき、共生について考える一端となったようだ。
- 連携・体制整備においては、取組4の協議会の参加者増加や会議の内容の深まりから、着実に歩を進めていることがわかる。保育園や小学校も外国につながる親子について、どのように対応していけばいいか理解を深めつつある。
- 人材育成(取組5)ではアンケートから、日本語教育に関わる人にはより専門的な内容を学ぶことができたようだ。また日本語教育に携わっていない人には外国出身者への関わり方や状況を知り、今後の接し方に変化が期待できる内容であったようだ。昨年に引き続き、講演会から勉強会につながり、埼玉県内の現状を互いに知るきっかけにもなった。

(3) 地域の関係者との連携による効果、成果 等

- 運営委員や連携機関の担当が変わり、年度初めは事業を理解してもらうのに時間がかかったが、教育委員会とは密に連携をとり、事業を行っていくことができた。人材育成に際しては、さいたま市内の全小・中・特別支援学校に講演会のチラシを配布してもらったり、講演会の優先予約をしてもらったりした。また講演会の告知には、埼玉県国際交流協会のメールマガジンや県国際課のメール配信などを活用させてもらい、周知につながった。
- 図書館、デイケア施設との連携による事業は日本人住民との交流の場でもあり、日本人・外国人にとっていい学びとなった。
- 運営委員会から、県教育局の理解が深まり、就学時健診などに講師として赴く家庭教育アドバイザーの研修会の講師を務めることになった。実際に外国籍親子が入学してくるが増えてきているようで、現場で困り感があったようである。研修会により、少しでも外国出身親子に適切な配慮がなされればと思う。
- 埼玉県社会福祉士会との連携は互いに勉強になり、今後社会で多文化の親子を支えていくためにも重要なつながりとなった。ソーシャルワーカーなど福祉分野の方との連携により、日本語だけではなくサポートが広がっていく可能性がある。

(4) 事業実施に当たっての周知・広報と、事業成果の地域への発信等について

- 取組1, 2, 3の教室活動や、取組5人材育成についてはHPやfacebookなどのSNSや口コミを中心に周知・広報に努めた。また、県メール配信や、国際交流協会のメールマガジンなども活用させてもらった。さらに大きなイベントがある時にはチラシを作成し、参加が可能である対象の地域の保育園や小学校、または教育委員会に必要部数を印刷して持っていき、配布してもらった。
- 上述のように取組6の図書館やデイケア施設、学校などだけではなく、外国出身者とゆっくり語り合える場を設けた。学んだ言葉を使い、学んだ内容を発信できる場を設けた。言葉や文化紹介だけではなく、日本での体験や今取り組んでいることなどを語ってもらった。

(5) 改善点、今後の課題について

- 人材育成に関し、外国につながる子どもに対し、直接かかわる教職員向けにも研修の機会を作る必要がある。現在、学校訪問研修を行っているが、文科省「外国人児童生徒受け入れの手引き」をもとに、外国につながる子どもの教育について配慮する点や日本語指導員が派遣されるまでのサバイバル的な日本語指導法、クラスで行える多文化を題材にした教室活動など、より、さいたまの現状にあった教材を作成したい。
- さいたま市子育て支援課から相談は来るが、その後、話が消えてしまい連携が取れないことが多かった。教育委員会(学齢期)とは連携できているが、子育て支援課(就学前)と今後連携が取れればいいと思う。
- 学校や福祉関係との連携が深まるにつれ、多文化の子どもや親の支援について、姿勢の違いを感じることがあった。日本語教育というのは、困っている人の支援だけではなく、困らないようにする予防的支援としての役割が大きいことに気が付いた。今後は予防的支援であるという立場を明確に発信し、コーディネーターの実現にむけて各機関に働きかけていきたい。

(6) その他参考資料

添付資料 (携帯番号の記載があるためHPへの掲載はしていません)

- 取組1 就学前日本語講座(夏休み親子イベント)チラシ
- 取組1 デイキャンプお知らせ
- 取組5 講演会チラシ①②
- 取組6 発信「外国出身者との対話型シンポジウム」チラシ